「英語コミュニケーションⅡ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立惟信高等学校
教 諭　久納　知幸

１　日時・実施場所

〈省略〉

２　学　　級

〈省略〉

３　学 級 観

〈省略〉

４　教　　材

〈省略〉

５　単元の目標

(1) 導入から定期考査まで

高齢者の活躍に関する文章を聞いたり読んだりして、概要や要点、詳細を捉えるとともに、その内容や言語材料を活用して自分の考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合うことができる。

(2) 定期考査後からパフォーマンステストまで

高齢者の活躍に関する内容や言語材料を活用して、海外の人に紹介したい日本の偉人について自分の考えをまとめ、話したり書いたりして伝えることができる。

６　関係する領域別目標（学年のＣＡＮ－ＤＯ）

聞くこと	身近な話題についての情報を聞き取り、概要や要点を理解することができる。
読むこと	身近な話題についての説明を読み取り、概要や要点、詳細を理解することができる。
話すこと［やり取り］	日常的な話題について、質問したり、自分の意見を述べたりして、会話を継続させることができる。
話すこと［発表］	画像やグラフなどの視覚的補助を利用しながら、事実と自分の意見を区別して整理したり、論理性に注意したりして話して伝えることができる。
書くこと	画像やグラフなどの視覚的補助を利用しながら、事実と自分の意見を区別して整理したり、論理性に注意したりして書いて伝えることができる。

７　単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	・高齢者の活躍に関する文章を聞き取るために必要な発音や語彙を理解している。		

	・高齢者の活躍に関する文章を聞き取る技能を身に付けている。		
読むこと	・文章を読み取るために必要な語彙や表現を理解している。 ・高齢者の活躍に関する文章を読み取る技能を身に付けている。	自分の考えを発表するために、高齢者の活躍に関する説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	
話すこと［発表］	・情報や考えを述べるために必要な語彙や因果関係を表す表現、文におけるイントネーション等を理解している。 ・高齢者の活躍に関する情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、高齢者の活躍について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の人々に紹介したい日本の偉人について口頭で詳しく発表している。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、高齢者の活躍について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の人々に紹介したい日本の偉人について口頭で詳しく発表しようとしている。
書くこと	・情報や考えを書いて伝えるために必要な語彙や因果関係を表す表現等を理解している。 ・高齢者の活躍に関する情報や考えを理由とともに書いて伝える技能を身に付けている。	読み手に自分の考えをよく理解してもらえるように、高齢者の活躍について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の人々に紹介したい日本の偉人について詳しく書いて伝えている。	

８　パフォーマンステスト

〇領域

話すこと［発表］

〇内容

海外の人々に紹介したい日本の偉人について話して伝える。

〇「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件１：紹介したい偉人の名前とその人物について特に話題にしたいことを述べている。 条件２：その人物の業績を二つ以上述べている。 条件３：その人物の生き方から自分が学んだことを述べている。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現が適切に使用されている。	三つの条件を満たした上で、文章構成を意識しながら、詳しく伝えている。	・三つの条件を満たした上で、文章構成を意識しながら、詳しく伝えようとしている。 ・聞き手に分かりやすい音声で伝えている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない語彙や表現を使って伝えている。	三つの条件を満たして伝えている。	・三つの条件を満たして伝えようとしている。 ・理解に支障のない音声で伝えている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

9　単元の指導計画　　※網掛けは記録に残す評価の場面。

（聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと［やり取り］、発…話すこと［発表］、書…書くこと）

時間	ねらい（■）、言語活動（丸数字） **「学びに向かう力」に関する指導（★）**	内容のまとまり					生徒の活動状況を見届ける観点（【　】）・方法（○）
		聞	読	や	発	書	
1	■単元内容の背景となる知識を活性化する。 **★単元の目標を理解する。** ①授業者のスモールトークを聞いて、内容を把握する。また、授業者が提示したテーマについて、生徒同士で話して伝え合う。 ②世界最高齢のゲームアプリ開発者がそのように呼ばれることになったきっかけについて、タブレット端末を用いながら情報を収集・整理して、簡潔に書いてまとめる。	○		○		○	【知】適切な語句や表現を使用しているか。 【思】概要や要点を適切に捉えているか。 【態】積極的に自分の意見を伝えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察
2～7	■パート１から３の内容を確認する。 ①世界最高齢のゲームアプリ開発者の紹介文を聞いたり読んだりして、概要と要点を理解する。 ②読み取った内容に関する感想や自分の考えを、話したり書いたりして伝える。 ③ペアを変えて、②の活動を複数回行う。	○	○		○ ○	○ ○	【知】適切な語句や表現を使用しているか。 【思】概要や要点を適切に捉えているか。 【態】会話が継続するよう工夫しているか。 ○ワークシート ○活動の観察

8	定期考査	知	知 思			知 思	【知】適切な語句や表現を使用しているか。 【思】概要や要点を適切に捉えているか。
9	■「練習タスク」に取り組む。 ①世界最高齢のゲームアプリ開発者の業績と生き方から学んだことを話して簡潔に伝える。 **★資料１及び資料２を用いて、学習の振り返りと今後の学習目標を設定する。**				○		【知】適切な語句や表現を使用しているか。 【思】概要や要点を適切に捉えているか。 【態】自分のパフォーマンスについて省察したり、学習目標を適切に立てたりしているか。 ○提出物 ○活動の観察
10 11 12	■「中間タスク」に取り組む。 ①海外の人々に紹介したい日本の偉人について、ペアで話して伝え合う。 ②資料３を用いて、論理的に書いて伝える練習をする。 ③海外の人々に紹介したい日本の偉人について、英語で書いて伝える。 **★資料２を用いて、学習の振り返りと今後の学習目標を設定する。**			○		○ ○	【知】適切な語句や表現を使用しているか。 【思】 ・概要や要点を適切に捉えているか。 ・パラグラフを適切に書くことができているか。 ○提出物 ○活動の観察
13	■「最終タスク」に取り組む準備をする。 **★練習の仕方を体験的に学ぶ。**						【態】 ・自分のパフォーマンスについて省察したり、学習目標を適切に立てたりしているか。 ・授業者からのフィードバックを役立てようとしているか。 ○ワークシート
後日	■「最終タスク」に取り組む。 パフォーマンステスト ・海外の人々に紹介したい日本の偉人について話して伝える。				知 思 態		※採点の基準等は「８　パフォーマンステスト」を参照。
後日	**★資料２を用いて、単元の学習を振り返る。** **★成功したことや失敗したことをクラス内で共**						【態】自分のパフォーマンスについて省察したり、学

	有する。						習目標を適切に立てたりしているか。 〇ワークシート

「学びに向かう力」を育成する上で留意した点

1　「～とは何か」「～するには、どうすればよいか」といった「本質的な問い」を設定する。

2　教科及び科目の目標と生徒の実態を踏まえながら、真正性、妥当性、関係性、準備性の観点から、パフォーマンス課題を検討する。

3　“GRASPS”（Goal、Role、Audience、Situation、Product/Performance、Standards and criteria for success）を活用して、パフォーマンス課題の解像度を上げる（**資料１**）。

4　単元の学習目標に関わる言語活動に複数回取り組む機会を指導計画に入れる（**資料１**）。

5　生徒が学習目標を自分で決定する機会を計画的に設定する（**資料２**）。

6　「学びに向かう力」を引き出す学習の仕方を提案する。

（例）Teams にある OneNote のイマーシブリーダー、リーディングコーチ、ディクテーション機能

7　生徒が自己の学習を振り返ったり、調整しようとしたりする機会を計画的に設定する（**資料２**）。

資料１

本単元のパフォーマンス課題

１　問い

海外の人々の日本に対する興味や関心を高めるために紹介する日本の偉人としてふさわしい人物は誰ですか。

２　条件

(1) あなたは本校の海外研修旅行で訪問している高校の学生に向けて、ゲストティーチャーとして、日本の偉人の①業績などの情報、②その人物の生き方から学んだことを口頭で発表します。

(2) この発表の目的は、あなたの発表を聞いて、海外の人の日本に対する興味や関心を高めることです。

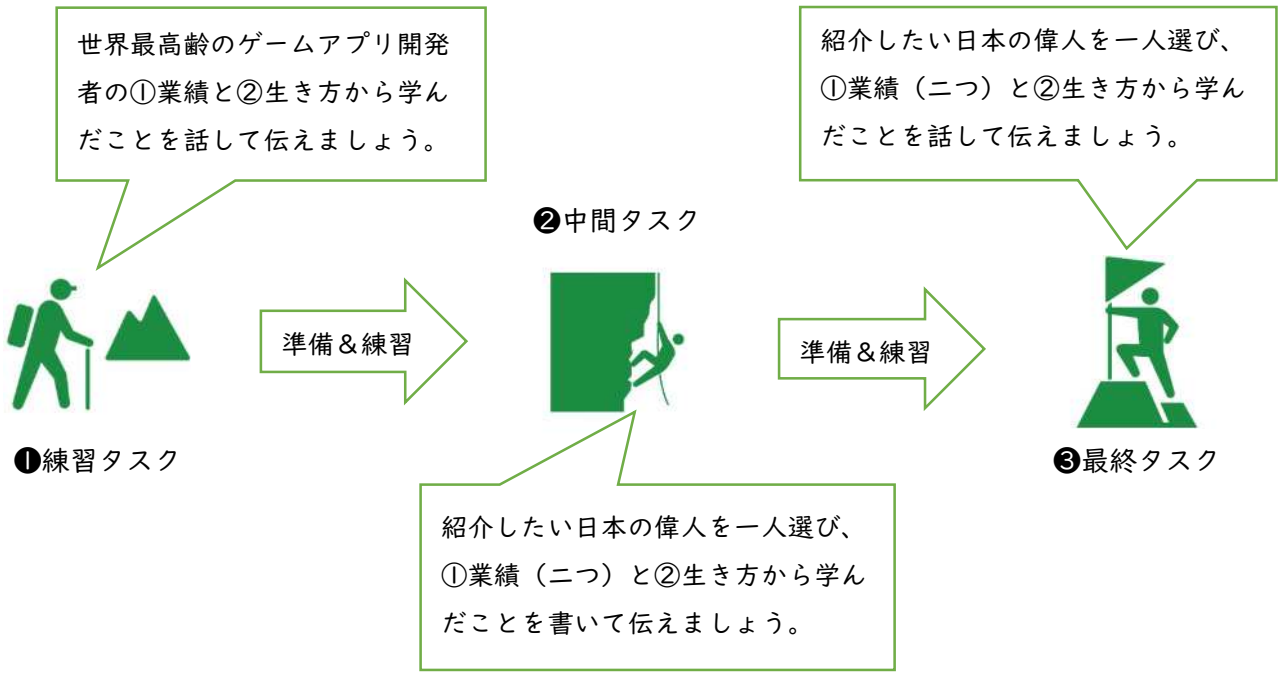
(3) この課題で目指したいパフォーマンスの規準は次のとおりです。

ア　課題の要求に対して十分な情報量と説得力をもって応えている。

イ　聞き手を意識した声量で、アイコンタクトを取りながら、表情豊かに伝えている。

ウ　音声表現が適切で、聞き手に負担をかけるところがない。

３　今後の見通し（各タスクの詳細な条件は口頭で連絡します）



４　自主練習のヒント

英語の音声表現を磨く上で、Teams の次の機能が利用できます。積極的に活用しましょう。

機能名	できること
イマーシブリーダー	発表原稿を読み上げてくれます。
リーディングコーチ	タブレット端末に向かって話した英語の発音のよしあしを判定してくれます。
ディクテーション	タブレット端末に向かって話した英語を画面上に書き起こしてくれます。

資料２

Learning Record

１　タスクの評価規準

A	次の全てを十分に満たしていると判断できる。 ①　課題の要求に対して十分な情報量と説得力をもって応えている。 ②　論理の構成や展開が適切である。 ③　英語表現がおおむね適切で、読み手に負担をかけるところがない。

生徒の学習状況や学習段階に応じた質問ができるようにしました。

２　パフォーマンスの出来栄え

	自己評価 （５が最高）	今回の活動の振り返り	※授業者の指示に従って記入 例：目標、学習目標、学習方法
練習タスク	❶ １　２　３ ４　５	❷	❸
中間タスク	❹ １　２　３ ４　５	❺	❻
最終タスク	❼ １　２　３ ４　５	❽	❾

自校のスクールポリシーや校訓などを踏まえながら、「学びに向かう力・人間性等」の指導（見取り）項目を立てます。

３　学習過程の振り返り

a「(どちらかと言えば)当てはまる」b「どちらとも言えない」c「(どちらかと言えば) 当てはまらない」

❿　パフォーマンスをよりよくしようと努力することができた。	a　b　c
⓫　上達しているのを感じながら取り組むことができた。	a　b　c
⓬　うまくできないときや忙しいときも気持ちを切り替えて取り組むことができた。	a　b　c
⓭　自分なりに工夫して準備したり練習したりする時間を作ることができた。	a　b　c
⓮　提出期限を守ることができた。	a　b　c

Class	No.	Name

資料３

Paragraph Writing Sheet

紹介したい偉人
その人物について特に話題にしたい事柄
話題にしたい事柄に関連する業績①
話題にしたい事柄に関連する業績②
偉人の生き方から学んだこと

添削するポイントを絞ることで業務の効率が上がります。英語表現の正しさについてはオンラインの添削ツールの活用を促しますが、授業者からの指導や助言を求める生徒には個別に対応します。

添削表：読み取れる内容のみ FB します。英語表現については今回の添削の対象外です。

話題にしたい事柄に基づいて業績①が書かれている	○	△	×
話題にしたい事柄に基づいて業績②が書かれている。	○	△	×
話題にしたい事柄及び業績①②に基づいて偉人から学んだことが書かれている。	○	△	×

Class	No.	Name

実践報告

１　問いと言語活動について

本単元は世界最高齢のゲームアプリ開発者の生い立ちについて取り上げている。退職してからコンピュータを購入して、試行錯誤しながらプログラミングを学び、高齢者をターゲットユーザーとしたゲームアプリを開発することに成功した。この業績は世界的にも認知され、米アップル社が開催している開発者向けのイベントに招待され、そこで基調演説を行った。このことを知った高校生がクラスメートに向けてその人物を紹介するという場面設定が単元の最終パートに提示されている。これを活用して、生徒が任意の人物について話したり書いたりして紹介することを複数回取り組む言語活動を実施しようと考えた。さらに、この言語活動の目的・場面・状況に現実性を付与するために、本校が毎年夏期休業中に行っている海外研修旅行での現地校生との交流と結び付けた。

学習指導要領（平成 30 年度告示）によれば、「英語コミュニケーションⅡ」の「話すこと［発表］」と「書くこと」の両方の目標に「論理性に注意して」という記述がある。本課のパフォーマンス課題を設定する上で、文と文の結束性や段落全体の一貫性に注意を払うように指導する必要があると考えた。

問い：海外の人々の日本に対する興味や関心を高めるために紹介する日本の偉人としてふさわしい人物は誰ですか。 言語活動：日本の偉人について話したり書いたりして伝える。

２　自らの学習を自覚的に捉えることについて

(1) 単元の学習開始時

本単元のパフォーマンステストに向けた学習の出発点を最終パート学習開始時とした。この時点で、生徒は世界最高齢のゲームアプリ開発者の生い立ちや業績について学んでおり、これまでの復習も兼ねて、この人物を紹介する発表動画を「練習タスク」として即興で作成する活動を行った。これまで聞いたり読んだりしたことをまとめた上で、英語で話して伝えることに困難を感じた生徒も見受けられた。自分のパフォーマンスの出来栄えを 5 段階で自己評価したところ、最高の「５」を選んだ生徒は一人もおらず、平均値は 2.90 となった。その理由として、①発表語数が少なったこと、②課題が求める条件を満たせなかったこと、③音声表現に困難を感じたこと、などが報告された。これを踏まえて、改善したいことや学習したいこと、できるようになりたいこととして、①話す内容をよく考えること、②分かりやすい英文で話すこと、③発音などの音声表現を向上させることなどを挙げる生徒が複数いた。音声表現については、単に正しい発音で話すだけでなく、聞き手にとって聞き取りやすい音声で話すという意見も複数見られた。これは聞き手に配慮する態度が反映された望ましい観点であると考え、後日の授業で生徒と共有した。

(2) 単元の学習の途中

論理性に注意して発表できるようになるために、ワークシートを利用したプロセスライティングを実施した。教科書の最終パートの本文を参考にして、自分が選んだ人物について概要を書き、それを一度提出することとした。提出物には内容についてのみフィードバックを行い、返却後、フィードバックを元にして、よりよい作文を書く機会を設けた。その後、「中間タスク」に取り組んだ。

先に取り組んだ「練習タスク」との違いとして、①タスクで求める語数が増えていることがある一方

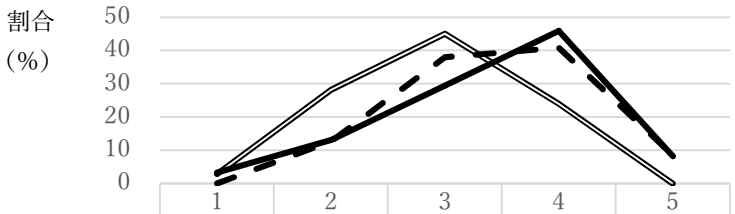
で、②準備するための時間が十分にあること、③授業者による中間指導を受けた上で取り組むことができたことがある。これがパフォーマンス後の自己評価に好影響を与えたようで、出来栄えに対する自己評価の平均値は 3.45 に上昇した。最高値の「５」を選ぶ生徒も見られ、準備してきたことを十分に発揮できたことに対する満足感を得ていたようであった。一方で、「２」を選んだ生徒もいた。その理由として、①授業者によるフィードバックを生かすことができなかったこと、②英語表現に誤りが多くあったこと、③課題が求める条件を満たすことができなかったことが挙げられた。

この振り返りとともに、「最終タスク」の実施に向けて、改善したいことや学習したいこと、できるようになりたいことを書く時間を設けた。そこで比較的多く挙げられた意見は、①授業で学んだ表現や易しい語彙を用いて、内容が明瞭で分かりやすい文を作ること、②できる限り原稿を見ずに発表できるようになること、③発音などの音声表現を向上させることなどであった。相手に伝わる発表ができるようになりたいと考える生徒が見られ、授業者として喜びを感じた。

(3) 単元の学習の最後

最後は「最終タスク」として、ルーブリックを用いて評価した結果をそれぞれの生徒に伝え、生徒はこれまでと同じ項目について振り返りを行った。生徒のパフォーマンスの出来栄えに対する自己評価の平均値は 3.43 であり、一定の自己満足感を得た生徒が多いようであった。最高値の「５」をつけた生徒の振り返りには「何度も練習して聞き手が聞き取りやすくなるように工夫した」「よりよいパフォーマンスにするために発音を調べて、練習した結果、よいものができた」という記述があり、言語活動に自主的に粘り強く取り組む態度が感じられた。一方で「１」または「２」をつけた生徒の振り返りには「相手に分かりやすく伝えることができなかった」「宿題を完了させるだけになってしまった」という記述があり、生徒全員の学習に対する取組を高めるまでには至っていないことが示唆された。

各段階のパフォーマンスに対する自己評価の変遷



	1	2	3	4	5
練習タスク	3	28	45	24	0
中間タスク	0	13	38	41	8
最終タスク	3	13	30	46	8

自己評価

３　補足

(1) 非認知能力のメタ認知について

国立教育政策研究所（2021）によれば、「学びに向かう力、人間性等」には観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分（「主体的に学習に取り組む態度」）と観点別学習状況の評価や評定にはな

じまない部分（「感性、思いやり等」）があるとされる。これに関連して、中山（2023）は認知能力だけでなく非認知能力も一体的に育成していくことが重要であると述べている。このうち、非認知能力は「自分と向き合う力」（自制心、忍耐力、レジリエンスなど）「自分を高める力」（意欲、向上心、自信など）「他者とつながる力」（コミュニケーション力、共感性、社交性など）の三つの能力群に分類することができるとされ、これらと「学びに向かう力、人間性等」の親和性は高いと推察されると述べている。このことを受けて、単元の最後にはパフォーマンスの出来栄えの自己評価や今後の学習の見通しの記述だけでなく、本校のスクールポリシー「目指す生徒像」等を踏まえた非認知能力に関する観点の振り返りも行った。本単元のみに限定せず、年間を通して同じ観点を継続的に振り返ることで、生徒が外国語学習に対して望ましい行動や習慣を形成する一助となることを期待したい。

(2) 授業改善について

生徒が学習したいこと、できるようになりたいことを記述する機会を設けたことで、生徒が望んでいることを授業者が把握し、それを加味して授業づくりができるようになった。今後は、生徒が成功体験を通じて自信をもつことができるように、言語活動の難易度や「思考・判断・表現」の評価に関わる条件の基準を慎重に検討して、生徒に提示していきたい。

(3) 問いについて

単元の最後の授業で改めて「海外の人々に対して、日本に対する興味や関心を高めるために紹介する日本の偉人としてふさわしい人物は誰ですか」という問いについて、個人やグループで考える機会を設けた。その結果、漫画家や映画監督の名前が挙がった。生徒から挙がった人物の共通点は、日本のサブカルチャーであるアニメや漫画等の創作を通じて世界的に活躍していることであった。生徒に理由を尋ねると、このような人物は聞き手の外国人も多少は知っており、海外で無名の人物を紹介するよりも意欲的に聞いてくれるのではないか、という回答が複数あり、音声表現だけでなく表現内容においても聞き手に配慮して発信するという姿勢が育ちつつあることを感じ取った。

４　参考文献

・*BIG DIPPER English Communication II*. 数研出版．2022

・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校外国語）』. 国立教育政策研究所．2021

・中山芳一．『教師のための「非認知能力」の育て方』．明治図書．2023

・西岡加名恵．『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』．明治図書．2018

・増見敦．『「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価―英語科言語活動の「振り返り」指導の経過と課題―』．研究紀要：神戸大学付属中等論集．2022

・山田誠志．『全国の実践から学ぶ中学校英語教育 35 のポイント』．日本標準．2022